研修会開催報告

「第１回保健師職能研修会」１０月１日開催

公益社団法人神奈川県看護協会
保健師職能委員会
２０２１年１１月３０日

今回の研修会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮しオンラインで開催いたしました。

最初に先生ご自身から自己紹介がありました。先生は長年、神奈川県をフィールドに活動され、ひきこもりに関する支援については四半世紀にわたり行っているそうです。社会的孤立問題に関心があり、ソーシャルインクルージョンの理念のもと、その中のひきこもりの方々の生きづらさにフォーカスをあて、相談支援を担ってきたそうです。２０１１年３月には市営地下鉄弘明寺駅から歩いて３分ほどの場所に地域活動支援センター「つながる café」を開設、利用される方は障害者手帳を持たない方がほとんどだというお話もありました。

今回、先生には「ひきこもりの理解と支援　～″こもりびと″の声に耳を傾けて～」のテーマで２回にわたりお話をしていただきます。
第１回は①ひきこもりとは何か②ひきこもりの理解の仕方に焦点をあてた内容で、グループディスカッションを交えながらお話していただきました。

①ひきこもりとは何か
２０１１年５月の新ガイドラインでは、従来の定義に「他者と交わらない形での外出をしていてもよい」という部分が加わりました。
こうしたひきこもりの推計数は平成 28 年度の内閣府「若者生活に関する調査」報告書で５４．１万人と示されています。また、ひきこもり（状態）の類型を、a 精神病（統合失調症陰性症状、うつ病などで治療、医療的ケアが必要なひきこもりもいる）b 発達障害 c 社会的ひきこもり（非精神病性、a でも b でもないひきこもりでカウンセリング的対話が必要）と３つに分類し、ひとりひとりみな違う契機、経過、かたち、意味、ゴールを経るという現れかたを提示されました。
今回の研修では、「『ひきこもり』という″問題″を脱構築すると「社会に出ることに慎重な態度からうまれる苦悩を表現している人たち」「自死しないで生き延びることを選択した人たち」と語られました。

②ひきこもりの理解の仕方

本人の内面、親子関係、社会との関係の３つの視点から本人の状態と本人が直面している困難な状況をとらえること、そして、その困難な状況は本人が克服、解決するもので、支援者が代行することは本人への暴力ととらえます。

社会にうまく適応すること、組織に順応することが優先されがちな今の社会ですが、ひきこもりの方々のゴールは「ひきこもりの程度を最適化すること」だと考えること、多様性を認め合い、本人が一番良いと感じる、考えるものをゴールとすることが大切だそうです。

このほか、高齢化するひきこもりの問題、親（家族）が直面している状態と困難、子どもの支援と同時に必要となる家族（親）のケアについてもお話しいただきました。

最後に、つながるcafé バンドの「だいじょうぶの歌」をご紹介いただき、先生から、「根拠のない『だいじょうぶ』は『あなたを信じているよ』というメッセージだ」というお話をいただくこともできました。

「ひきこもりを生きる」を支援することの理解として、そのゴールは「ひらきこもり」であること、ひきこもりの生き方を否定せず、また、孤立させないよう他者とのつながりを育み共に生きていくことを前提に、自己決定を徹底的に尊重しながら支援することの大切さに共感しました。また、支援のゴールを「就労」とする考え方にとらわれがちですが、それだけではないさまざまなゴールがあること、その人なりの「最適化」ゴールを一緒に考えることの必要性を学びました。

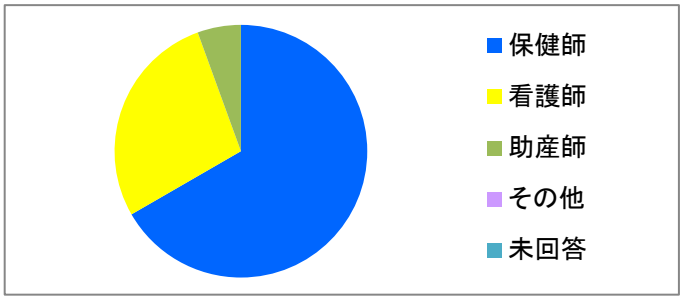
次回 12 月 17 日には、第２回目の「ひきこもりの理解」として『支援』について学ぶ予定です。

研修名	令和３年度　保健師職能委員会　第１回研修会 タイトル：ひきこもりの理解 ～「こもりびと」の気持ち・親の気持ち～ 講　　師：長谷川 俊雄 氏 白梅学園大学こども学部・子ども学科　教授 （社会福祉士・精神保健福祉士）
研修年度	２０２１年度
研修日	令和３年１０月１日（金）
開催方法	オンライン講習（Zoom）
研修時間	１４時００分から１６時３０分（受付１３時 30 分から）
参加人員	申し込み人数　３４名　参加者　３１名 内訳：会員　２５名　非会員　６名 職種（保健師 ２３名、看護師 ６名、助産師 １名　社会福祉士 １名）
会　　場	神奈川県総合医療会館　６階第１研修室より Web 配信

◆令和3年度　第1回保健師職能委員会研修会（回収数18）

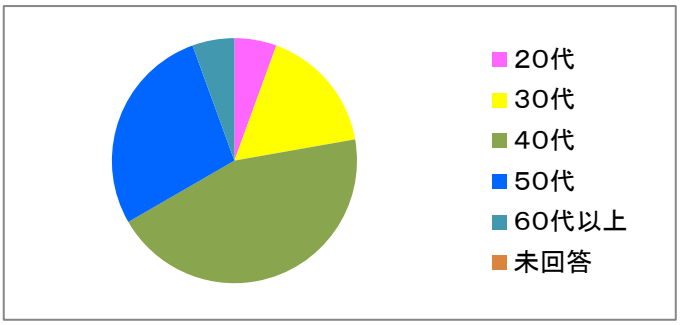
（１）参加者職種

保健師	12
看護師	5
助産師	1
その他	0
未回答	0



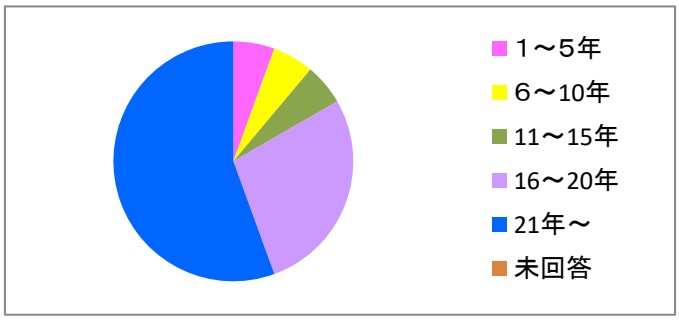
（２）年代

２０代	1
３０代	3
４０代	8
５０代	5
６０代以上	1
未回答	0



（３）経験年数

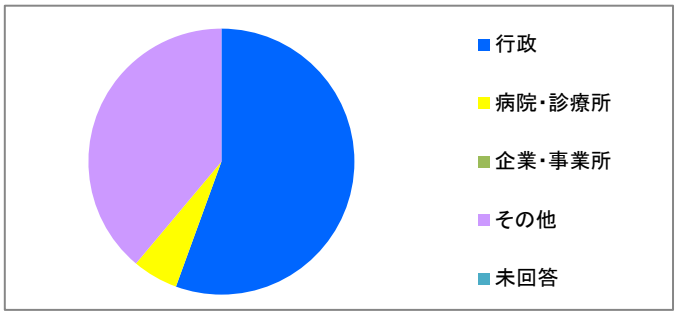
１～５年	1
６～10年	1
11～15年	1
16～20年	5
21年～	10
未回答	0



（４）所属

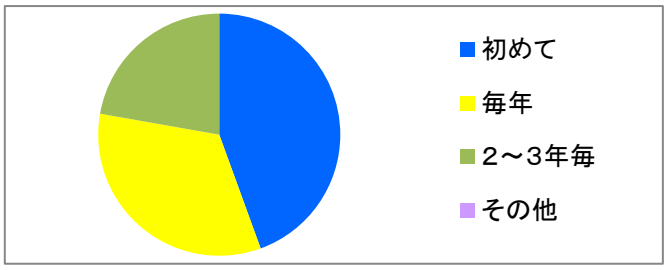
行政	10
病院・診療所	1
企業・事業所	0
その他	7
未回答	0

その他：学校、社会福祉協議会他



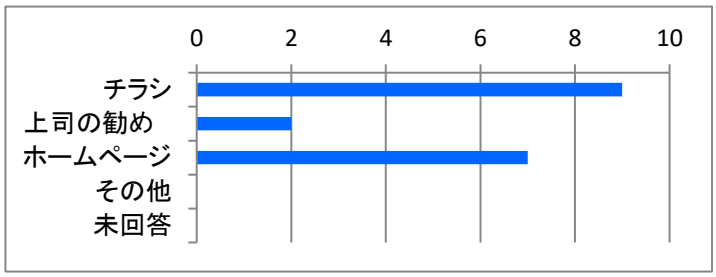
１．保健師職能委員会の企画する研修会の参加状況

初めて	8
毎年	6
２～３年毎	4
その他	0



2．研修会をどのように知りましたか。（複数回答）

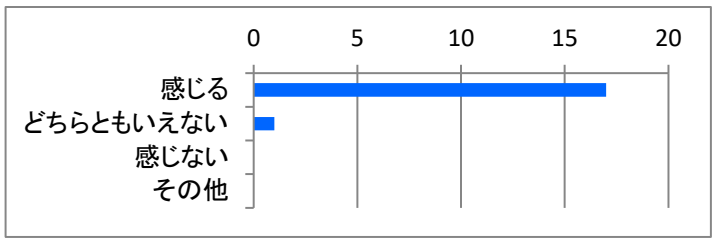
チラシ	9
上司の勧め	2
ホームページ	7
その他	0
未回答	0



3．今回の講演会の内容について

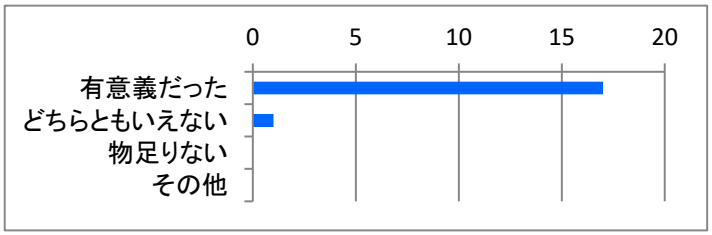
（1）内容は必要性を感じるものでしたか

感じる	17
どちらともいえない	1
感じない	0
その他	0



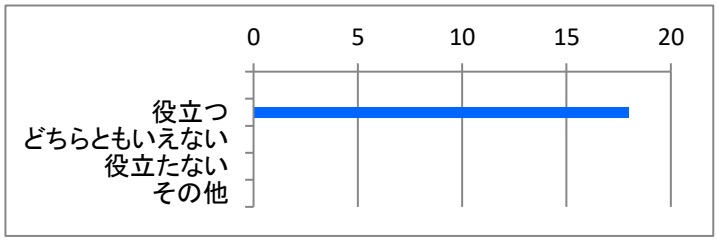
（2）内容は有意義でしたか

有意義だった	17
どちらともいえない	1
物足りない	0
その他	0



（3）今後の職務に役立つものでしたか

役立つ	18
どちらともいえない	0
役立たない	0
その他	0



4．研修会の感想・お気づきの点

- たくさんの事例をわかりやすく教えていただき、とても有意義な研修でした。
- 今日のテーマはどの職種でも関わる可能性があり理解や配慮が必要だと思うので、大変勉強になりました。
- 8050の50のひきこもりに課題を感じての受講でしたが、かなり深刻なものであることがよく分かりました。次回の支援編で、予防的支援について、もう少し伺いたいと思います。また、doingよりもbeing、みんな違ってよい、多様なゴールを当事者と一緒に考えたいと思いました。
- ひきこもりについて、理解が少しできましたが、実践するにはまだまだ学びが必要だと思いました。
- 職務にも役立つ内容でしたが、自分自身の子供への関わり方を振り返って反省させられた点もたくさんあり、大変有意義な研修でした。後半の研修も楽しみです。
- 当事者の視点から学ぶことが多い研修会でした。自分自身が柔軟に考えることが大切だと改めて、感じました。